

## 学校現場のジェンダーフリー

子どもたちはその成長の過程で性別に対する違和感を抱くことがあります。理由はそれぞれであるし、一過性の場合がほとんどかもしれませんが。しかしながら、当事者にとってはその時期は深刻に捉えてしまうことがあります。小中学校の学校現場では性的な差別を無くすジェンダーフリーが遅れています。先進的な中学校などでは女子用のスラックスを導入したり、体操服や持ち物などの性別による色分けを無くしたりしています。長久手市においても学校現場でのジェンダーフリーを推進して行ってほしいと考えます。



## みんなで作るまちづくり条例

今議会に自治基本条例である「みんなで作るまちづくり条例（案）」が出されています。

この条例のなかでまちづくり協議会を想定したまちづくりが謳われています。しかしながら、現状でまちづくり協議会は西小校区ひとつしかできていません。その西小校区でも試行錯誤をしている状況です。こうした組織をまちづくりの根幹にしている理念条例になっていますが、長期にわたって市の最高規範とするにはあまりに不確定な未来像となっている感があります。住民投票も大事なことであり、その仕組みをきちんと謳うべきと考えます。機会を捉えて見直しをしていく必要があると考えます。

みなさんの抱える日々の暮らしの中での**疑問やお願い、困り事**を聞かせて下さい。

発行者：**佐野 尚人** 〒480-1114  
愛知県長久手市長配1丁目707番地の2  
✉ [nagakute@sano-naoto.com](mailto:nagakute@sano-naoto.com) ☎ 0561-61-2085

NAOTALK 最新情報を随時更新中!!  
HP [www.sano-naoto.com](http://www.sano-naoto.com)  
Twitter @nagakutenaoatak

※この活動報告は、政務活動費の一部を使用しています。

新たな長久手のために



# NAOTALK

長久手市議会議員

佐野尚人

議会活動報告



平成29年度役職

議会だより編集委員長 / 愛知中部水道企業団組合議会議長 (長久手、日進、豊明、みよし、東郷で構成)

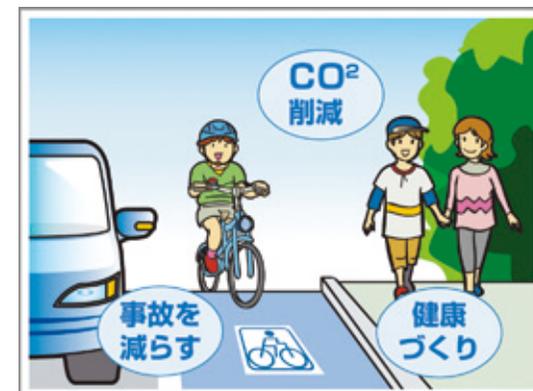
## 学院通りに自転車レーンを整備します

平成20年からエコサイクルシティ構想を提言してきました。

そのなかで平成30年度、学院通りに長久手市の市道としては初めての自転車レーンを整備することとなりました。

10年ほど前から学院通り沿線住民の多くのかたから「大学生の自転車が歩行者との接触等危険が多い!」との指摘を受けていました。沿線PTAの皆さんとの協議から始まり、平成27年、28年では沿線自治会、PTAの皆さんを交え意見交換を行い準備を進めてきましたが、このたび警察や日進市との合意を得て平成30年度中の整備を行うこととなりました。同時にルールづくりなどの整備を進めていきます。

これまでに金沢市や富山市の自転車利用の取り組みを視察してきました。金沢市では自転車を借りて1日街中を実際に走り、金沢市内のほとんどの自転車レーンを体験してきました。中核都市金沢の大胆な自転車レーン整備を体験し、自動車、自転車、歩行者がお互いに譲り合う現状を確認できました。昨年には会派としてもさいたま市の自転車ネットワークを視察し広域での取り組みも視察してきました。歩行者、自転車、自動車がそれぞれ安全に譲り合うことができるようなレーンの整備に取り組んでいきます。



## 市民主体のまちづくり!

### 市民を免罪符にしたまちづくりは青天井にならないか!

平成30年度西小校区まちづくり協議会交付金では従来、上限（予算委員会では目安に変わりましたが）としていた500万に加えて、100万円の乗用車代を上乗せしています。

**Q、100万円は何に使うのか?**

**A、**西小校区まちづくり協議会で乗用車を購入し、青パトとして使用する。

**Q、**これまでパトロールをしてきた実績等はあるのか。

**A、**徒歩のパトロールをしてきたが、より広範囲でとの要望があり、今回乗用車を購入する予定。

**Q、**高齢者の交通事故が危惧されるなかでの市民による青パトだが、人員の確保も未確定な状況で大丈夫なのか。無理な運行で事故があってはいけない。

**A、**これから準備をしていくので理解してもらいたい。

**Q、**市では全域をセーフティステーションによる青パトでパトロールをしている。これに同乗して地域をまわるなどの実績を重ねてから検討するなどしてはどうか。

**A、**来年度にそうしたことをしながら仕組みを作っていく。

**Q、**初めから限度額いっぱい予算はあまりにも公金を支出している意識にかける。ずさんな積算になってはいないか。他の事業と比べまちづくり事業の積算根拠は異常なほどゆるい。市長の方針とはいえ、ずさんな支出は看過できない。事業目的や効果などをもっと精査すべきである。

**A、**要綱にのっとって支出するので問題はない。

議会は平成28年度、29年度と続けて一般会計予算に、28年度は異例の決算認定にも附帯決議を付しています。市民主体を免罪符にしてのまちづくり・コミュニティ事業の支出が過大にならないよう執行を留意せよとしています。また、まちづくりにおいて地域間格差を広げないように求めています。一部の小学校区が突出するのではなく、市全体で進めるように調整を図りながらコミュニティを作っていくべきです。これ以上の暴走とならないよう議会としても議決機関としてのチェックを厳しくしていかなばと感じています。



決算委員会に引き続き予算特別委員会の委員長を務めました。この青パト購入費に対しては2時間以上の議論がありました。委員長としても執行部に対し再考を促した結果、来年度の青パトの購入を見合わせる旨の発言がありました。今後は地域防犯と市全体の防犯体制との整合性を図り、安全な仕組みを担保しながら進めていってまいります。



## パークシェアについて

現在長久手市では高齢者が気軽に集うことのできるサロン活動を積極的に進めています。またシニアクラブへの援助も行い高齢者が元気で外出するよう促しています。その活動場所は集会所や憩いの家です。本当に近くの人には歩いていけますが、車椅子の人はもちろんですが足を痛めてしまっている人、長い距離は歩けない人などはどうしても車でいく必要があります。しかしながら、その多くに駐車場が整備されていません。春日井市では市民にアンケートをとり個人宅などの駐車場の状況を調査しました。そのなかで「昼間はまったく使っていない。」「息子が使っていたが今は離れて住んでいるので、しばらくは誰も使わない。」など時間によっては使用できるスペースがたくさんあることがわかりました。長久手市でも同じような現状ではないかと考えます。市が調査をして空きスペースを把握し、サロンやシニアクラブの利用者に案内できれば、これまで参加できなかった高齢者も参加できるようになるかもしれません。今議会でこうしたパークシェアの取り組みについて質問しました。



**Q、**春日井市で行ったような調査をして、個人宅や集合住宅の駐車場の空き状況を把握し、サロン活動などの利用者にパークシェアできないか?

**A、福祉部長** 地域で行う高齢者の活動は活動場所が5分圏内であるのが理想と考えており、活動場所へ車で通うことを想定していない。市としては今後もサロン活動の支援を続けていくが、車の利用が必要な場合は参加者や地域が知恵を出し合い解決していただきたい。

市は集会所や憩いの家がどのくらい整備されているかは当然知っています。すべての高齢者が集会所などから徒歩5分圏内に住んでいないことも知っているでしょう。福祉担当者がこのような考えでは「日本一福祉のまち」は100年たっても実現できません。

